

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400598		
法人名	株式会社 エステートホーム		
事業所名	サロン・ド・フレール羽島		
所在地	〒501-6244 岐阜県羽島市竹鼻町丸の内9丁目53番地		
自己評価作成日	平成24年5月31日	評価結果市町村受理日	平成24年8月3日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・調理に参加したり見学したり盛り付けを目の前でやる。</li> <li>・個々のニーズに合わせた食環境に努めている。</li> <li>・施設での利用者様の日常の様子や出来事を写真の掲示や手紙によって家族に伝える事ができている。</li> <li>・職員が絶えず笑顔を忘れない様努めている。</li> </ul>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170400598&amp;SCD=320&amp;PCD=21">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170400598&amp;SCD=320&amp;PCD=21</a>
----------	---

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>施設理念”自由に、ありのままに、自分らしく”、及びケア理念”響きあい”を、誰にでも目につく玄関や共有スペースに掲げ、思いやりや分かち合いの心が共鳴できるよう会議等で話し、折に触れ実践に繋げている。毎年地域の行事である”さぎちょう”に参加したり廃品回収に協力している。また週3回程、掃除や話し相手に地域ボランティアの訪問がある。利用者と一緒に回覧板を届けたり、事業所の秋祭りには周辺の方へ呼びかけるなど、近隣住民とふれ合う機会を見つけ交流を図っている。正月料理、お彼岸のおはぎを利用者も参加して作っている様子が写真で掲示されている。お好み焼きを懸命に焼く姿から、昨年の課題である”出来る事を活かし日常生活での役割を自信に繋げる”為の努力がうかがえる。テラスの胡瓜が食卓に上がり、家庭的なぬくもりがさらに加わり笑顔のある和やかな事業所である。</p>
--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会		
所在地	〒503-0864 岐阜県大垣市南類町5丁目22-1 モナーク安井307		
訪問調査日	平成24年6月25日		

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	響き合いの理念に沿ったケアに努め、会議での話し合い、申し送りや日勤業務表に書き込む等して日々意識できるよう努めている。	施設理念”自由に、ありのままに、自分らしく”、及びケア理念”響きあい”を、誰にでも目につく玄関や共有スペースに掲げ、思いやりや分かち合いの心が共鳴できるよう会議等で話し、実践につながるよう働きかけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会行事の参加をはじめ買い物、散歩、外食などできる限り外に出る事を意識し小学生や民生委員との交流にも努めている。また子供110番の窓口にもなっている。	毎年”さぎちょう”に参加し、また廃品回収に協力したり利用者と一緒に回覧板を届けている。地域の方がボランティアで、週3回程掃除や話し相手に来てくださる。事業所の秋祭りには周辺の方へ呼びかけ交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談の実施。 外出時などに認知症の方への理解や支援方法を示している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者も徐々に増える様工夫している。(交流会、会食等) 参加者が意見を出しやすい様努めている。	事業所の様子を写真集で分かり易く紹介している。家族の参加も多く、市の担当者から災害時の備蓄3日分の提案や、包括支援センターの仕組みの説明があり、情報交換と共にサービスに繋げて取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者、エリアマネージャーを中心に日頃から連携を取り協力関係を築ける様努めている。	毎月、空き情報や待機情報を連絡している。また、食中毒などの警戒情報をもらうなど連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議などで研修を行い学ぶ機会を持ち、身体拘束にあたらぬか具体的に検討しながら介護方針を決定している。 家族、本人からの申し出時は経過記録を取り身体拘束をしなくてもよいケアができるよう努めている。	家族の強い要望により、現在ベッド4点柵の拘束をしている。代表者及び全ての職員は、身体拘束によって受ける身体的・精神的苦痛を理解しケアに取り組んでいる。身体拘束を行う場合の容態及び心身の状況など記録の見直しを考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議などで研修を定期的に行っている。 特に口調が強くなってしまうよう会議でも話題に取り上げ意識している。 日々の業務でも職員同士注意し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修を行っている。 管理者、エリアマネージャーを中心に必要であれば支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の面談で利用者や家族に十分な説明を行い理解、納得をしたうえで契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱、苦情窓口の設置や家族の意見を大切に、反映できるよう努めている。	利用者の表情の変化や職員同士の情報交換、アセスメントで得たバックグラウンドから思いを汲み取っている。ケア計画を変更する時には、面会時や電話で家族から意見を聞き、反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ヒアリングや会議、日々の会話からも意見を提供できる事ができ反映させている。	月2回の会議や申し送りノートの意見を運営に反映させている。ユニット会議ではケアの方法などの意見を出し合い、テーブルの高さを変えたりスプーンから箸に変えるなど、一人ひとりのケアの見直しに活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人一人のコミュニケーションを大切に、各自が向上心を持って働けるような環境作りを目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修案内を出して参加を募ったり勤めるなどして研修を受ける機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームや社会福祉協議会で管理者、エリアマネージャーを中心にネットワーク作りに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談で利用者や家族から情報収集し、状況を把握した上でご本人が出来る限り安心して生活できるような信頼関係を意識している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談から得た情報に加え本人や家族からの要望を聞き入れるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談から得た情報も含めて、必要な支援を管理者、エリアマネージャーを中心に見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	響き合いの理念のもと、日々の暮らしや地域の情報などを教えていただく事も多く、支え合う関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡時など日々の様子を報告したり、利用者と家族と一緒に過ごせるような場を作ったりと連携に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事に参加し、なじみの人に会ったり近所の方が尋ねてみえたり、なじみの食べ物の提供や行事、場所へ一緒に出かけている。	友人の訪問がある時は、お茶を提供しゆったりと談話ができる環境作りに心掛けている。別院や商店街など馴染みの場所への外出には、家族の協力を得ながら支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係が円滑に行くよう気を配り、職員が間に入りながら、関わり合い支え合えるような場を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても必要に応じて相談を受けられるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中から希望や意向を把握できるよう努めている。 時には家族からの希望を受けたり協力を得たりしている。	入居前に、管理者・ケアマネージャー・職員・エリアマネージャーが2回に分けて情報収集している。それを踏まえ、好きな物や家族が食べさせたい物は家族の協力を得ながら対応するなど、利用者の思いに沿えるよう柔軟に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者、家族に協力して頂き今までの暮らしぶりや生活環境を把握しこれまでの人生について支障のない範囲内で教えて頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の情報をやアセスメントから全職員が現状を把握するように努めている。 個々の状態に合った支援をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人のニーズが何であるのかを探り会議や日々の申し送りの中から必要とされる支援を理解し作成している。	2週間毎のユニット会議でケア検討会が全職員で行われ、モニタリングに基づき日常の支援に活かしている。当初無理だった洗濯たたみもできるようになるなど、改善の様子が記録を通して確認することができる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや介護記録、連絡ノートを活用し全職員が情報を共有し、実践やケアの見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて本人や家族の状況に合わせた対応をしている。その時にできる最大限の努力をし、できる限りニーズにそえるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向を取り入れ、買い物や公園など地元に出かけている。 ボランティアの受け入れにより地域との関わりを大切にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医と施設主治医の選択ができる。 緊急時は他の医療機関へも受診している。	基本的に、眼科や歯科などは家族の付き添いで受診し、その結果は必ず報告を受けている。介護に必要な情報の共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間オンコールの訪問看護と連絡し、週に1回訪問を受けて日々の状態や変化を伝えアドバイスを頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はこまめに面会するよう努めている。 また家族とも連絡をとり情報を共有している。 退院時も連携し対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、家族と相談しながら対応している。 状態の変化に合わせて本人、家族の意向をその都度確認して対応している。	入居時に、方針、家族・本人の意向などを含めて話し合っている。容態の変化には医師も交えて意思を確認し、心残りのないよう支援している。看取りの際に宿泊できる準備がある。今のところ看取りの経験は無いが、希望があれば対応する考えはある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルに沿って対応している。 定期的に会議で確認し変更もその都度確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防訓練を実施し(年4回)風水害のマニュアルも作成している。会議の場を使い 全職員が対応できるよう研修も行っている。	火災の対応はできており、風水害に対するマニュアルも用意されている。地域の拠点の一つとして、専門的なノウハウだけではなく、より密接な相互関係の構築を推進会議等を通じて意欲的に取り組もうとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の利用者の性格を理解したうえでそれぞれに合わせた声かけをしている。	「人生の先輩として積み重ねてきた日々を尊重する」ことを全職員が大切にしている。ちゃんづけの呼び方、幼児語などは固く禁じている。職員の自然で穏やかな接し方が利用者の柔らかな表情に感じられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中から思いや希望を引き出し、自己決定しやすい選択方法に努めている。 文字の書ける方には、紙に希望を書いて頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や発言などからペースに合った対応をしている。 希望に沿えるよう業務の変更や調整も行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回、床屋の来所がある。 希望により美容院でのカット、染めをされている方もみえる。 外出時にはスカーフや帽子など外出用の身支度を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じられるような食材を使った献立を作成したり、誕生日には本人の希望のものを出すようにしている。 個別の夕食や家族を交えた食事会を開いたりしている。	正月料理、お彼岸のおはぎなど、利用者も参加して作っている様子が写真で掲示されている。お好み焼きを懸命に焼き、好きな物を選ぶ人の様子は、目標計画課題達成の努力がうかがえる。テラスの胡瓜が食卓に上がり、家庭的なぬくもりを添えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考えて献立を作成している。食事形態(キザミ・ペースト)は個々の利用者に合わせてものにしてる。 飲み物も数品から選ぶ事ができるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々の利用者の状態に合わせて行っている。 歯科医の往診もあり、アドバイスをいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用したり、職員間で声を掛け合い情報の共有に努めている。さりげない声かけや席を立たれたタイミングで誘導したりしている。	職員間で排泄チェック表を共有し、一人ひとりのリズムを見計らい、トイレ誘導により、はくパンツから布パンツへと変えることができた。一つしかないトイレを補うため、各居室にポータブルトイレが配備されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご飯に麦・寒天を入れたり、水分も好みのもの、好みの温度で出したりなど、個々に合わせて出している。 主治医と相談し、薬の調整も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望に合わせて入浴している。拒否のある方は状況に合わせて中止したり、シャワーのみや清拭で対応している。	浴室は家庭的なほど良い広さで、真新しい浴槽が設置されている。しかし利用者にとっては使いづらい部分もあり、シャワー浴対応の方も多。湯船に入浴される場合には、季節に応じ柚子風呂など楽しめる支援をしている。	これまでの生活習慣を考え、利用者全員が浴槽にゆったり浸かれる入浴支援、工夫ができないか、今一度職員間で話し合い検討して欲しい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせて対応している。 室温、布団、灯、雑音など環境面にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現場に処方箋ファイルを設置し、変更や追加は申し送りや生活記録に記入して情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の利用者に合った役割、楽しみを日々の会話の中から発見できるよう努めている。発見したものは情報を共有して支援できるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候にもよるが希望により外出を支援している。 面会者と外出したり花見や祭りなど、季節の行事にも出かけられるよう支援している。	喫茶店・公園などが近く、交通量が多い割には歩道の確保も十分で、恵まれた環境である。希望があれば買い物など個別対応している。重度化に伴い外出が困難な利用者にはテラスに出て外気浴をするようにしているが、散歩の対応に苦心している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在個人でお金を持ってみえる方はいない。 買い物際には職員が支払うが、その様子を見ていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室にて携帯を持ってみえる方もおり、ご家族とお話されている。希望時には、電話を使用出来るよう支援している。 お孫さん等からはがきや年賀状が来ることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるような飾りつけ、外出時やボランティア来所時の写真や地元の祭りや行事のポスターを掲示している。 テラスには花や野菜を植え水やりを日課にしている方もいる。 テレビをつけず静かな音楽を流したりしている。	青田からテラスに吹き付ける風が心地良い。 広い廊下にもソファが置かれ、利用者がそれぞれにゆったりとくつろげる空間がある。入口の介護相談案内の看板が工夫されていて、親しみのある玄関の雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下、テレビ前にソファを設置し、自由に利用できるようにしている。 食事テーブルの席は決まっており、個々に配慮した環境作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで家で利用していた家具やなじみのものを持ってきていただき、本人、家族と相談しながら居心地よい居室作りを工夫している。	衣類の収納は作り付けで、各居室とも画一的に整理されている。テレビや鏡台、家族写真などが持ち込まれているが生活感にやや欠ける。ポータブルトイレが人目に付きやすい状態にある。	ホームでの居室は唯一プライベートな場所である。その人らしさとは何か、理念を基に話し合いを深め、居心地よく過ごせる居場所として、更にも上を目指し取り組まれることを期待する。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人のできない部分をさりげなくサポートできるよう、トイレや洗面所に看板を設置したり、居室の入口に自分の部屋だと分るよう名札や写真を貼ったりして、「できること」はさらに自信がもてるよう支援している。		